




**発行所**


 公益社団法人 全国珠算教育連盟  
**青森県支部**  
 所在地 三沢市中央町4丁目4-6  
 ☎0176 (53) 3662  
 支部長 齋藤 隆  
 責任者 福士隆行

## 全珠連創立60周年記念式典、盛大に挙行

桜満開の3月30日(日)、東京都グランドプリンスホテル新高輪に於いて全珠連創立60周年記念式典が挙行政され、651名の参加者が満60歳の還暦を祝いました。午後2時に開式、物故者黙祷、国歌斉唱に続き梶川眞秀理事長が式辞、「この60周年を契機として心を新たにし、日本の伝統文化である珠算を今以上に発展させることを誓う」と述べました。山崎直子名誉会長挨拶、感謝状伝達、功労者表彰、理事長への花束贈呈と続き、超一流ホテルの会場での式典は厳かな中にも、華やかに盛大に行われました。午後4時30分からは祝宴となり、工藤壽和理事が「今日は盛り上がっていきましょう」と開宴を宣言、東京都中野区の打越太鼓が会場に響き渡りました。参加者は、杯をかさねながら節目を祝い、70周年に向けて心を新たにしました。



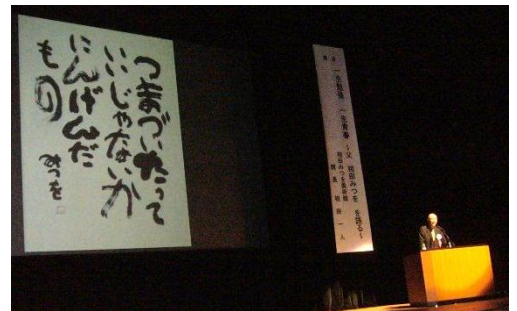
< すばらしい会場で盛大に挙行 >

## 第60回全国珠算研究集会、東京で開催！～前半～

3月31日(月)、東京都品川区立総合区民会館に於いて第60回全国珠算研究集会が開催されました。全国から700名余、うち青森県支部からは25名の先生方が、60回の節目、公益社団法人としての記念すべき第1回目の研究集会に参加しました。午前10時に開会、梶川眞秀理事長が「この研究集会は当連盟が設立された翌年の昭和29年に静岡県に於いて第1回を開催し、その後は途切れることなく各地持ち回りで開催されてきた。今後は新法人として、この研究集会をより魅力的な事業として発展させねばと心を新たにしている」と挨拶しました。

### —講演「一生勉強・一生青春～父、相田みつをを語る」—

午前11時から『一生勉強・一生青春～父、相田みつをを語る』と題して、相田みつを美術館館長でみつを氏の長男である相田一人氏が講演、父の作品が生まれた原点を、3つの視点から話されました。1つ目は「書のひみつ」として独特の書体、文字について「子供が書いたみたい」「うまいのか下手なのかかわからない」など誤解をうけている面があるとし、みつを氏の書について「17歳から書道を始め23歳で書のコンクールで1位となるなど基礎をしっかりと身につけていた。まともな字もかけるんですよ」と様々な書体で書かれた作品を披露しました。「活字はもちろん、どんなに上手な字を書いても相手に想いが伝わらないと感動させることはできない」と考えたみつを氏は30畳の作業部屋が1日で半紙で埋まるほど書き続け、納得の1枚のほかは燃やしてしまったそうです。あの有名な作品『つまづいたって いいじゃないか にんげんだもの』は何もしなければつまづかない。チャレンジして失敗を重ねていくことで人間は成長していくんだということを自身の体験から伝えたかったのではと話されました。2つ目の「人生のひみつ」では貧困な家庭で育ち、少年時代は血気盛んで不良・問題児扱いされたことや戦死した優秀で優しかった2人の兄に恥じない生き方をしようと心に決めたいきさつなど、テレビ番組「今日は何の日～相田みつを誕生の日」のビデオ映像を交えて紹介しました。3つ目は「いのちの詩人のひみつ」として不運の進学体験、むなしい青春時代、悲惨な挫折の経験、戦争で死んだ2人の兄を思う母のことなどが当時の古い写真とともに語られ、



< 心に響く独特の書体と言葉 >



作品が生み出された原点を探りました。次に亡くなる前年の講演会の様子がビデオ再生され、子供時代に紙芝居の見料1銭を払えず兄と盗み見してみつかりつるし上げられたせつない体験や、戦争で中国の公安にいた兄が死刑になる北京大学の学生を命がけで守ったこと、戦争は最大の罪悪であることを話されていました。みつを氏がいつも言っていた言葉「心だけは一生青春でありたい」、チャレンジそして青春、ふたつでひとつ「一生勉強・一生青春」。

# 第60回全国珠算研究集会、東京で開催！～後半～

## －パネルディスカッション「算数教育とそろばん」－

昼食休憩をはさみ午後1時30分より『算数教育とそろばん』と題しパネルディスカッションが行われました。パネラーは上垣渉氏(岐阜聖徳学園大学教授)中野靖彦氏(愛知淑徳大学教授)大場一輝氏(東京都狛江市立緑野小学校長)の3名。算数科教育の充実をめざす(大場氏)、教育心理学の面からヤル気を引き出す、ほめて意欲を出させる(中野氏)和算に通じるそろばんゲーム(上垣氏)などをあげ算数教育とそろばんの融合をめざしていきたいと語りました。そろばん教室の役割としては「人間力を鍛える」こと、機械的に教えるのではなく考えさせながら教える(筋道を立てて考えさせる)ことをあげました。また、法則を利用したゲームの活用で楽しみながら能力を伸ばしていく方法(上垣氏)、大人がきちんと手本を示すことと情緒的な(温かい)ふれあいがヤル気持続に繋がる(中野氏)、理解の遅い児童への指導事例(大場氏)など珠算教育者にとって参考となる中身の濃いパネルディスカッションでした。



< 司会は小沼光浩先生でした >

## －研究発表「教場における危機管理」－

続いて、午後3時10分より神奈川県支部の安里利子先生が『教場における危機管理』題し研究発表を行いました。教室を存続させるための危機管理として高齢化に伴う後継者の育成が必要であり自身も後継者探しに奔走したこと、東日本大震災後、停電対策としてソーラーLED外灯を設置したこと、生徒が途中寄り道したり不意の事故を防ぐため登下校メールを導入し、いつ来ていつ帰ったか父兄に連絡していること、近隣に迷惑をかけないように駐車場を確保しモニターを設置して監視していること、保護者からのクレームに対応し練習した時間がわかるようにタイムレコーダー(タイムカード、出席カードを兼ねる)を使用していることなどを話されました。また、そろばんが輝き続けるための危機管理(時代にマッチしたこれからのそろばん)は、計算器具から教具としてのそろばんへの転換、珠算式暗算の社会へのアピール、IT化に対応していくことをあげました。



< たっぷり勉強・青森地区 >



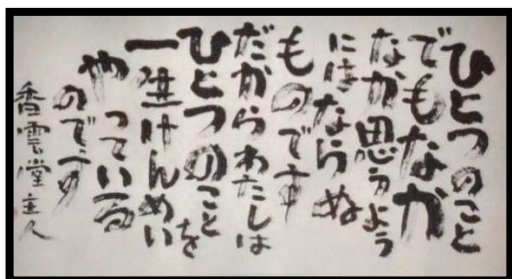
< お楽しみ抽選会 >



< 70周年の祝賀会にも参加したいですね >



< ちょっと観光も…三沢地区 >



< 基礎をきちんと学んだからこそ生まれた書体なのです >

## 行事予定表(平成26年4月～7月)

月日	行事	場所
4月27日(日)	全日本珠算選手権青森県支部予選	三沢市
	珠算(4～10級)・暗算(1～6級)検定試験	県下一斉
29日(火)	青森県高校大会	青森市
5月3日(土)	(～6日(火)まで) 支部休み	
25日(日)	第361回珠算・暗算検定試験	全国一斉
28日(水)	アメリカンスクール・ソロバンコンテスト	三沢市
6月22日(日)	珠算(4～10級)・暗算(1～6級)検定試験	県下一斉
29日(日)	第45回県下珠算競技大会	十和田市
	兼 第42回東北七県予選(星野リゾート奥入瀬溪流)	
7月20日(日)	第362回珠算・暗算検定試験	全国一斉
29日(火)	第42回東北七県珠算競技大会	十和田市
	(星野リゾート奥入瀬溪流ホテル)	



### 検定試験 十段合格者

◆第359回検定試験(平成26年1月26日施行)  
【珠算十段位】齋藤 亜美(三沢地区)

